

[財]日本太鼓連盟

NIPPON TAIKO FOUNDATION

発行・編集 〒105 東京都港区虎ノ門1-15-16 財団法人日本太鼓連盟
副会長 塩見 和子 Tei.03-3580-9536 Fax.03-3580-8322

◆ 日本太鼓連盟設立にあたって ◆

会長 吉野和男

財団法人日本太鼓連盟は、平成9年11月11日文部大臣の許可を得て設立いたしました。

昭和54年に任意団体として発足した全日本太鼓連盟が、18年の活動を経て念願の法人化を果たしたものでした。この間の太鼓関係者のご努力は如何ばかりであったかとご推察いたします。この法人化に伴い、全日本太鼓連盟はその全ての活動を新法人に移行し、解散することになりました。私は、法人の設立に当たり、設立発起人代表者としての責を担いましたのがご縁で法人設立後の11月28日開催された第1回理事会において理事の皆様のご推薦により会長に就任することとなりました。

これまでの太鼓関係者のご努力・ご活動に感謝を申し上げ、当財団の今後の発展に全力を尽くす所存でありますのでよろしくお願ひいたします。

ご高承のとおり、日本太鼓は我が国特有の文化として、また健全な国民娯楽として重要な役割を有し

ており、今後ともこれを普及・振興していく必要があります。

このため、全日本太鼓連盟がこれまで実施してきました多くの事業をさらに発展させると共に財団法人として新たな公益活動を積極的に展開いたします。

また、多くの太鼓愛好者を視野に入れ会員制度の充実をも図りたいと存じます。このような活動を通じて、日本太鼓を国内のみならず国際的にも普及・発展させるべく最大の努力をしていく所存であります。

財団設立に際し絶大なご支援・ご尽力を賜りました日本財團をはじめとするモーターボート関係団体並びに財団法人日本音楽財團に対しまして衷心より感謝申し上げますとともに、今後とも当財団にお力添え賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、皆様の今後ますますのご健勝とご発展を心より祈念いたしましてごあいさつとさせていただきます。



●奉納太鼓(小口副会長)

◆ 設立記念式典を盛大に開催！ ◆



●祝辞（笹川陽平氏）

11月28日、財団法人日本太鼓連盟の「法人設立記念式典」が東京・船の科学館において来賓並びに太鼓関係者約2百名が集まり盛大に開催された。司会（小野常務理事）の「これまで日本太鼓界のために多大なご尽力を戴きながら故人となられ、本日の晴れの日を迎えることが叶わなかった方々に、心より感謝の意を表し、黙祷を捧げたい。」とのことばにより、永年、全日本太鼓連盟で理事長を務め、この程財団の副会長に就任した小口大八氏の奉納太鼓の演奏に併せ全員が黙祷を捧げた。

全日本太鼓連盟発足以来、初代会長として永年にわたり卓越した指導力を發揮され、日本太鼓の普及・発展に多大な貢献をされた故・山内令子財団理事より法人大会への協力に対するお礼と、財団法人として責任のある立場で各種公益活動を展開し、日本太鼓の普及・発展に努力したい旨の謝辞を述べた。

この後開かれた懇親会は、ジョージ・川口氏の音頭による乾杯で始まった。

懇親会では、ご来賓、太鼓関係者が入り交じり、太鼓談義に大いに盛り上がった。

財団から、公務のため急遽欠席された吉野和男会長の挨拶文を池田庄作副会長が代読、続いてご来賓を代表して、日本財団理事長笹川陽平氏並びに国立劇場芸能部長西角井正大氏のお二方からご祝辞をいただいた。

笹川氏からは、公益法人の設立が非常に難しい今日、太鼓連

盟が法人化を許可されたことを評価された後、日本太鼓は、これから国内のみならず国際的にも活動を展開するよう期待が述べられた。

次いで、日本太鼓永年功労の表彰式に移り、塩見副会長より次の方々に感謝状が授与された。池田庄作氏、小口大八氏、浅野義幸氏、ジョージ・川口氏、西角井正大氏、松本源之助氏、なお、全日本太鼓連盟2代目会長の首藤堯氏に対してはご欠席のため後日お届けすることとした。



●乾杯（ジョージ・川口氏）

式典の閉会に当たり、山内令子財団理事より法人大会への協力に対するお礼と、財団法人として責任のある立場で各種公益活動を展開し、日本太鼓の普及・発展に努力したい旨の謝辞を述べた。

この後開かれた懇親会は、ジョージ・川口氏の音頭による乾杯で始まった。

懇親会では、ご来賓、太鼓関係者が入り交じり、太鼓談義に大いに盛り上がった。



●会場風景



●感謝状贈呈(塙見副会長から西角井氏へ)

懇親会も半ばに入り、突如会場後方の入口から太鼓の音が轟いた。2月に迫った長野オリンピックの出演者を代表して10名の有志が長野から駆けつけた。

長野オリンピックの前哨戦として、昨年夏の米国アトランタオリンピックにも出演したメンバーもあり、世界の太鼓をアピールするのに良い機会とばかり熱のこもった演奏で、会場からも大きな拍手が響いていた。

会場は、この後もこれからの財団に期待する声や、今後の抱負を語り合うなど時間の経つのを忘れたかのように盛り上がりをみせていた。外はいつの間にかすっかり日が暮れて、レインボーブリッジ

がライトアップされ、財団の門出を祝福するかのように輝いていたのが印象的であった。

2時から行われた解散理事会から出席されていた方は、すでに5時間を超える長時間であったが、まだ物足りなげに帰路についていった。



●長野オリンピック太鼓チーム



●池田副会長

記念式典に多くの皆様からお祝いを戴きました。
この場をお借りしてお礼申し上げます。

●盛 花：日本財団、国立劇場、(財)日本音楽財団、(社)石川県太鼓連盟

●ご祝儀：(社)日本モーターボート選手会、全国競艇施設所有者協議会、(財)全日本剣道道場連盟、

(社)全国モーターボート競走会連合会、全国モーターボート競走施行者協議会、(財)日本民謡協会、

(社)日本ギター連盟、(社)大正琴協会、大島御神火太鼓、武藏国府太鼓響会、三浦太幸堂、

(株)浅野太鼓楽器店、(有)諏訪響太鼓店、(有)鈴木太鼓店、(株)宮本卯之助商店、

西角井正大氏、大和滋氏

●祝 電：衆議院議員自由民主党森喜朗総務会長、参議院小野清子議員、衆議院金子一義議員、

(財)モーターボート競走近代化研究センター、(財)日本ゲートボール連合、(財)日本科学協会、

(社)石川県太鼓連盟、芳賀日出男氏

(いずれも順不同・敬称略)

◆さようなら 全日本太鼓連盟 解散総会開催◆

財団法人日本太鼓連盟が文部大臣の許可を得て、正式に設立した11月11日、昭和54年に発足以来、永きにわたり太鼓愛好者の集まりであった全日本太鼓連盟が解散することとなった。

思い起こせば各地の太鼓が郷土の特色を色濃く伝え伝統芸能、民俗芸能として注目され始めた昭和53年に全国の鼓友が集まり、日本太鼓の普及向上と相互の親睦を目的として太鼓連盟発足の機運が高まった。

翌54年8月、(財)日本船舶振興会(日本財團)と(財)日本音楽財團の支援を受けて、当時の(財)日本船舶振興会・ 笹川良一會長を連盟會長に推戴、東京の笹川記念会館において110団体が結集して第一回総会を開催した。 同時期に日本財團が中心となって船の科学館周辺で行われていた宇宙科学博覧会に設立記念大会として大挙 出演し、大いなる船出となった。

連盟創立15周年を迎えた平成5年、日本太鼓が将来に亘り伝統太鼓の継承と創作太鼓の発展を図りつつ、地域文化の振興と全国的な展開を図ることを目的として、法人化の準備を開始した。しかしながら、基本財産の確保や事務局の体制作りなど多くの課題が行く手を阻み、その準備は遅々として進まず、設立に向けて準備金を毎年積立てていくのが精一杯であった。

このような情勢の中、連盟の象徴とも仰ぐ、 笹川良一會長が平成7年7月17日、不幸にしてご他界された。その時の会員の哀しみは言語に尽くせぬ思いであったのは云うまでもない。9月に増上寺で行なわれたご葬儀には、北海道から沖縄まで、正に全国各地から会員が駆けつけ法被姿での弔問は、関係者の間でも話題となった程であった。

平成8年6月、第7回の総会において第2代會長に(財)日本音楽財團會長の首藤堯氏を、副會長に同財團理事長の塩見和子氏をそれぞれお迎えし、財團設

立に向けて新たな体制が作られた。また、日本財團からも基本財産の拠出や財團設立後の運営に関し絶大な支援を受けられることが伝えられた。これに伴い、主務官庁である文化庁に対しては早速財團設立申請の事前相談を開始し、その指導を受けながら準備を進めた。

一方、平成9年の第8回総会においては財團設立が許可された時点において全日本太鼓連盟を発展的に解散し、全日本太鼓連盟の行ってきた事業とその



●総会スナップ

残余財産の全てを新財團に移行・寄付するとの決議を行った。その後、若干の難関も、日本音楽財團の全面的な協力により乗り越えることができ、正式許可を迎えることとなった。全日本太鼓連盟の解散総会は、平成9年11月28日の法人設立記念式典に先立ち、全国から代表者が出席して行われた。

河野理事の開会の辞、首藤會長の挨拶(池田副會長代読)に続き、塩見副會長から「昭和54年に全日本太鼓連盟設立以来、永きにわたる法人化への道のりであった。途中において法人化準備金の処理など幾つかの問題があったことは承知している。また、私が副會長に就任した後でも、連盟のしおり、資格認定事業、会員名簿などの作業に不備な点も多く、連盟組織の姿勢にかなりの疑問を感じた。しかし、日本財團より2億9千万円の基金を拠出していただき、法人設立が達成された今、過去のことを教訓にしながらも、固執することなく新たな門出としたい。」との挨拶があった。

引き続き挨拶した小口大八理事長は、太鼓の生い

立ちや思い出を話された後、公益法人の設立が非常に難しい今日、日本太鼓連盟が財団法人として許可されたことを高く評価した。

続いて議事に入り、第1号議案の平成9年度事業報告及び第2号議案平成9年度収支決算は議案説明の後審議し、一括で承認された。

第3号議案の財団法人日本太鼓連盟設立に伴う全日本太鼓連盟の解散並びに残余財産の処分については、

- ① 名称を[財団法人日本太鼓連盟]とすること
- ② 基本財産は、旧連盟が1千万円を寄付し、日本財団から拠出予定の2億9千万円と併せて3億円とすること
- ③ 新法人の役員は理事、評議員とも定数を、15名以上20名以内とし、文化庁の指導により太鼓関係者は全体の3分の1以内とすること
- ④ 第9回総会における決議に基づき、全日本太鼓連盟を発展的に解散し、その残余財産は財団法人日本太鼓連盟に寄付すること

等の説明の後、採決に入り全員一致で承認された。

最後に、塩見副会長の提案により小口理事長が音頭をとり、手締めで全日本太鼓連盟の幕を閉じた。

●活動ニュース●

「'97神宮外苑ロードレース・東京ふれあいマラソン」に2チームが出演

平成9年12月21日、神宮外苑ロードレース実行委員会(日本財団、笹川スポーツ財団及び東京新聞等で構成)主催による「'97神宮外苑ロードレース・東京ふれあいマラソン」が昨年に引き続き国立競技場及び神宮外苑周回コースにて開催されました。このマラソンは、知的障害者や身体障害者を含め3千人が参加する大規模なもので、非常に公益性の高い事業です。

(財)日本太鼓連盟は、この大会に後援し、本財団に加盟している福島の「ひろせ梁川太鼓」(吉田勝男会長)と東京の「真如太鼓」(西野恵代表)が協力、国立競技場で演奏を行いました。午前9時から午後3時まで太鼓のリズミカルな演奏は、マラソンランナーの人達にとって大きな励ましになったようです。またスタンドを埋めた観客からも、伝統ある日本太鼓の莊厳さとチームの太鼓に向かう真摯な態度に対して大きな拍手が送られていました。

郵便口座の開設

財団設立に伴い、新たに郵便口座が開設されました。以前の口座は使用出来ませんので、会費の振込等は右の口座をご利用下さい。

口座番号

00100-6-419013

事務局人事

新任 常務理事兼事務局長 小野 翼
全国モーターボート競走会連合会より就任
移籍 事務局職員 大澤和彦／石塚博子
出向元の日本音楽財団より移籍

御祓い

事務所の仕事納めである12月26日に、新たな年を迎えるにあたり西久保八幡神社の宮司のご来所を仰ぎ、財団の益々の発展と関係者全員の健康を日本音楽財団役職員の皆さんと共に祈願いたしました。

会報への寄稿

これからのお問い合わせについてのご意見、ご希望など、なんでもお寄せ下さい。

事業のご案内

1月

23日(金)第1回日本太鼓チャリティ・コンサート

(東京・草月ホール) *特別招待者に限定

24日(土)第1回日本太鼓全国フェスティバル

(東京・日比谷公会堂) 11時～18時30分

入場料 3千円(会員2千円) 中学生以下は無料

2月

7日～22日長野オリンピック閉会式への出演

3月

5日～11日国際交流事業(国際ツーリズム・マーケット展)

(ドイツ・ベルリン) 派遣団体：御諏訪太鼓連合会

14日(土)15日(日)第1回日本太鼓全国講習会

(埼玉県県民活動センター)

受講料 大人(高校生以上)1万円(会員9千円)

子供5千円(会員4千5百円)

●お問い合わせは、どんな些細なことでも事務局までご遠慮なくご連絡下さい。●

◆ 日本太鼓連盟の事業活動 ◆

目的

この法人は、日本太鼓の伝統伝承並びに普及・振興を図り、もって我が国文化の発展に寄与することを目的とする。

事業

この法人の目的を達成するため、次の事業を行う。

- 日本太鼓の伝統伝承及び創作・普及活動への支援
- 日本太鼓の演奏会、コンクール及び講習会等の開催
- 日本太鼓を通じた国際交流
- 日本太鼓に関する技能認定
- 日本太鼓に関する調査研究
- その他この法人の目的を達成するために必要な事業

基本理念

①日本太鼓の伝統伝承及び創作・普及活動への支援

古来から伝わる伝統太鼓を正しく継承・保存と新たな創作活動の普及・発展を支援する。

②日本太鼓の演奏会、コンクール及び講習会等の開催

日本太鼓の普及・振興と技術の向上を目的とする、全日本太鼓フェスティバル、日本太鼓チャリティ・コンサート等特別企画の各種演奏会、次代を担う太鼓演奏者の育成と太鼓人口の拡大を図ることを目的とする太鼓コンクール、太鼓の後継者育成

を図るための講習会等を行う。

③日本太鼓を通じた国際交流

海外における日本の伝統文化の紹介のうち、太鼓は「日本の心」を伝えるものとして高く評価され、海外からも大きな関心が寄せられている。

太鼓演奏団体の海外派遣と併せて海外に存在している日本太鼓演奏団体や海外各国特有の打楽器演奏団体との交流を促進する。

④日本太鼓に関する資格認定制度

日本太鼓の指導者の育成と技術の向上を目的とする資格認定制度を確立し実施する。資格認定制度は、指導者の育成のための「公認指導員制度」と演奏者の技術向上の基準としての「技術認定員制度」との2本建てとして制定し、推進する。

⑤青少年の健全育成

日本太鼓は、団体演奏に必要なチームワークの大切さや太鼓に向かう真摯な態度から礼と節が備わることが評価されている。さらに、全身を使っての演奏は体力づくりとして、又太鼓のリズムは生活のリズムを養うことに結びつくものとして注目されている。この様なことから、青少年の健全育成と併せて日本太鼓演奏の後継者育成を図る。



●国際交流(ジャパン・ウイーク・イン・ルーマニア)



●太鼓フェスティバル

⑥生涯教育の一環としての和太鼓の奨励

太鼓人口は少年から高齢者にまで年齢層が広く、特に最近は主婦を始め女性グループも増加し、男女の比率も均衡している。また、健常者のみならず身体・知的障害者のグループも誕生しており、太鼓演奏が心身の鍛錬に寄与することも立証されている。この観点から生涯教育の場に太鼓を組み込んでいくことを奨励する。

⑦地域の活性化

「ふるさと創生」事業などにより、地域の活性化が推進されている中で、それぞれの地域の伝

統文化を文化遺産として継承し、かつそれを文化的に高めていくこうとする動きが高まってきた。このような動きを背景として、太鼓が高く評価され、それに伴い太鼓人口も急速に増加している。太鼓人口（演奏団体）の増加を進める中で、各地の「村おこし」・「町づくり」に貢献する。

⑧日本太鼓に関する調査・研究

日本太鼓に関する文献・資料の収集、調査研究及び将来はライブラリーの創設等を行う。

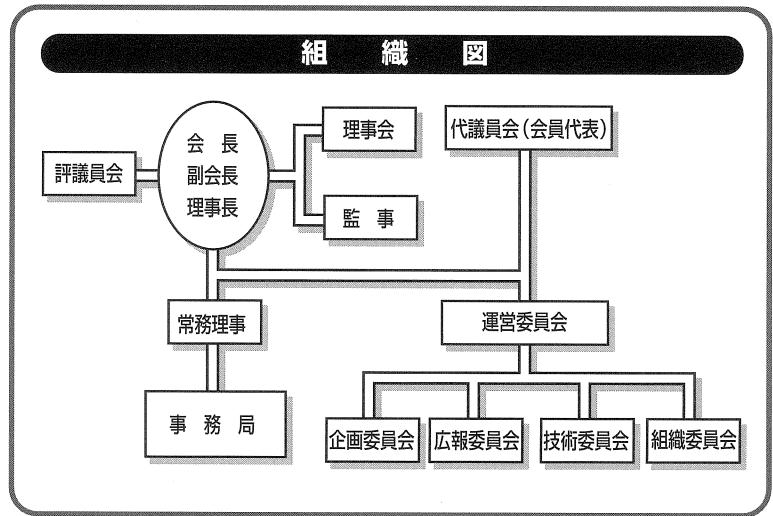


●日本太鼓全国講習会

財団概要

●名 称	財団法人 日本太鼓連盟 Nippon Taiko Foundation
●代表者	会長 吉野和男
●設立日	平成9年11月11日
●資 産	基本財産 3億円
●事業年度	4月1日より3月31日まで
●主務官庁	文化庁芸術文化課
●加盟団体数	697団体
●構成員数	約2万人

組織図



◆財団法人日本太鼓連盟役員紹介◆



会長
吉野 和男
(府中市長)



副会長
塩見 和子
(日本音楽財団理事長)



副会長
池田 庄作
(御陣乘太鼓保存会)



副会長
小口 大八
(御諏訪太鼓保存会)



常務理事
小野 翼
(事務局長兼務)

理 事

(50音順)

(任期：平成9年11月11日から平成10年6月30日まで)

浅野 義幸 (株)浅野太鼓楽器店取締役社長
植村 泰一 東京音楽大学学長
大宅 映子 評論家
景山俊太郎 参議院議員
中地 刑 沢 全国モーターボート競走施行者協議会専務理事
クリストファー・マクドナルド 日本ロレックス(株)代表取締役
三隅 治雄 実践女子大学教授
山内 令子 (福)富岳会理事長
吉田 貴壽 昭和音楽大学学長
デイビット・ライト 駐日英国大使

監 事

長内 健 弁護士
宮地 真澄 (社)全国モーターボート競走会連合会専務理事

地区の代表として第1回評議員会において
理事に選任予定の候補者
鈴木 俊秋 秋田県太鼓連盟会長(北海道・東北代表)
井関 君夫 埼玉県太鼓連盟会長(関東代表)
長谷川 義 全九州太鼓連合会長(九州代表)

評 議 員

(50音順)

(任期：平成9年11月28日から平成11年11月27日まで)

伊藤 雅俊 (株)イトーヨーカ堂名誉会長
大町陽一郎 指揮者
岡田 知之 洗足学園大学教授
ジョージ・川口 ドラム奏者
北村 汎 三菱商事株式会社顧問 代表取締役
小泉 武夫 東京農業大学教授
河野 和義 岩手県太鼓連盟会長(北海道・東北代表)
小久保定郎 三重県太鼓連盟会長(近畿代表)
高橋 秀雄 日本伝統芸能研究所所長
深沢登志夫 山梨県太鼓連盟会長(中部代表)
堀田 豊和 富山県太鼓協会会长(長野・北陸代表)
松本源之助 江戸里神楽土師流家元
三木 稔 作曲家
宮崎 義政 千葉県太鼓連盟会長(関東代表)
脇元 勝巳 鹿児島県太鼓連合会長(九州代表)